

日本農芸化学会 2006 年(平成 18 年度)大会

2006 年 3 月 26 日 京都女子大学にて発表

品種判別を目的とした丹波黒ダイズの SSR 分析・系統樹作成と市販加工品の解析

○小阪 英樹, 畠中 知子¹, 曳野 亥三夫², 戸田 登志也(フジッコ、¹神戸大・農、²兵庫県立農林水産技術総合センター)

[目的]極大粒黒ダイズである丹波黒は丹波地方を発祥とする在来種である。近年国内の主要産地で系統の管理が進む一方、中国産の黒ダイズが丹波黒として流通している。本研究では国内の主要産地機関で管理されている丹波黒標準系統(以下 JTS)、日本産他品種黒ダイズ(以下 JBS)、種子管理状態が不明な中国産黒ダイズ(以下 CBS)の SSR 分析結果に基づく系統樹を作成した。さらに市販の煮豆製品の分析を行った。[方法と結果]ダイズ SSR プライマー(Soybase,<http://soybase.agron.iastate.edu/ssr.html>)を 18 種類選択し、JTS 7 点、JBS 4 点、CBS 12 点について、それぞれ単粒で各 5 粒、計 115 粒の SSR 分析を行い、その結果から UPGMA 解析による系統樹を作成した。JTS と JBS は同一試料内で多型はみられなかったが、CBS は同一試料内で複数の遺伝型が存在した。また CBS のうち丹波黒として流通しているものの中には、中生光黒、黒こまちと同程度あるいはそれ以上に JTS との遺伝距離が遠いものがあつた。丹波黒と表記されている市販煮豆製品について同様に単粒で分析したところ、明らかに JTS と異なる黒ダイズが混入していた。